②加藤源重　☆小学校二年　一学期実施

主題　障がいを乗り越えて　A(5)　希望と勇気・努力

一　醸成したいおかざきの心

けがをしたあと、障がいを克服するための自助具を自ら発明した、岡崎の発明王から学ぶ努力と強い心

二　教材　おかざきの　はつめい王」

『岡崎市現職研修委員会道徳部自作資料』

加藤源重さんは五十六歳のとき、機械にはさまれて、右手の手首から先をなくしました。源重さんはこれまでの知識を生かして、右手の働きを助ける器具を考えました。そして、義手や義足を作る人の所へ行き、製作をお願いしましたが、断られてしまいました。それなら、自分で作ろうと決心をしました。何度も試行錯誤を繰り返し、くじけそうになりながらも万能ホルダーを完成させました。

三　本時のねらい

(1)　自分で自助具を作ろうとする源重さんの姿を通して、あきらめずやり遂げると、どんな気持ちになるか考えさせる。

(2)　あきらめずに前向きに努力していこうとする態度を育てる。

四　発問例

発問①「頑張ったけどくじけそうになったことはありますか。」

・逆上がりに挑戦したけど、できなくて嫌になったよ。

・プールで二五ｍ泳ごうとしたけど、苦しくて諦めてしまったよ。

発問②「源重さんは、手を動かす補助器具を誰も作ってくれなくても、左手があおあざだらけになっても、どうして作るのをやめなかったのでしょう。」（中心）

・うまくいかない　・作るのは、無理なのだろうか　・何としても作りたい

・左手までけがをしてしまって、どうしたらいいのだろう

補助発問「どうして源重さんは、作るのをやめなかったのでしょう。」

・自分の右手になるものがほしかったから　・あきらめたくなかったから

発問③「万能ホルダーが完成したとき、源重さんはどんな気持ちだったでしょう。」

・やっと完成してうれしい　・あきらめなくて良かった

・この新しい右手を大切にしていこう

(自覚)「あなたが、源重さんのようにがんばってやりとげたいことは，どんなことですか。」

・人のためにできることをやってみたいよ。

・諦めてしまったことに、もう一度挑戦してみたいな。